

# がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です  
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	AVAPERL maintenance
診療科名	呼吸器内科
診療科責任者名	三沢 昌史
適応がん種	進行NSCLC(扁平上皮がんを除く)
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NSCLC-54
登録日・更新日	登録日2015年5月26日・更新日2023年8月22日
削除日	
出典	Ann Oncol. 2014;25:1044 J Clin Oncol. 2013;31:4349
入力者	安室 修

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	ペバシズマブ(遺伝子組換え) (ペバシズマブBS点滴静注)	100mg、400mg	7.5 or 15mg/kg	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他( )	90分	Day1
	生理食塩液	100mL				
No.2	ペメトレキセドナトリウムヘミペンタ水和物 (ペメトレキセド点滴静注液)	100mg、500mg、 800mg	500mg/m <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他( )	10分	Day1
	生理食塩液	100mL				

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【減量基準】 以下のいずれかに該当する場合ペメトレキセドを前回用量の75%に減量 ・最低好中球数&lt;500/mm<sup>3</sup>及び最低血小板数≥50,000/mm<sup>3</sup> ・好中球数に関わらず最低血小板数&lt;50,000/mm<sup>3</sup> ・粘膜炎を除くグレード3又は4の毒性 ・入院を要する下痢(グレードは問わない)又はグレード3若しくは4の下痢 以下のいずれかに該当する場合、前回用量の50%に減量 ・最低好中球数に関わらず出血を伴う最低血小板数&lt;50,000/mm<sup>3</sup>(ペメトレキセド) ・グレード3又は4の粘膜炎(ペメトレキセド)</p> <p>【中止基準】 グレード3以上の神経毒性 2回の減量後にグレード3若しくは4の血液毒性あるいは非血液毒性が認められた場合 いずれかに該当する場合休薬する(ペバシズマブ):蛋白尿(2g超/日)、本薬に起因するGrade3以上の肝機能障害、Grade3の血栓症/塞栓症 いずれかに該当する場合中止する(ペバシズマブ):Grade4(蛋白尿、血栓/塞栓症) Grade3以上(出血、薬剤でコントロールできない高血圧、本薬に起因する過敏症) 消化管穿孔または裂開</p>
前投薬	<p>5-HT3受容体拮抗型制吐剤 + デキサメタゾン</p> <p>ペメトレキセド初回投与の7日以上前から葉酸として1日1回0.5mg(バンビタン1g)を連日終日投与する(ペメトレキセドの投与を中止又は終了する場合には、最終投与日から22日目まで投与する)</p> <p>ペメトレキセド初回投与の7日前にピタミンB12として1回1mg(メコバラミン注2A)を筋肉内投与する(ペメトレキセド投与期間中及び投与中止後22日目まで9週ごと(3コースごと)に1回投与する)</p>
その他の注意事項	<p>ペバシズマブの点滴時間:初回90分、2回目以降は忍容性に応じて60分、30分に短縮可能 ペバシズマブの投与量は原著(Ann Oncol. 2014;25:1044)では7.5mg/kgであるが、J Clin Oncol.2013;31:4349では15mg/kgであるため、「7.5 or 15mg/kg」の投与量設定とする。 Induction後にPDとなった症例は除く</p>

記入者	安室 修
確認者	三沢 昌史